



「次」を考える

センター試験が終わった。悲喜こもごもだろうが、過去のことを考える時間があったら「次」に向けて動き出した方がズッとよい。うまく行った人は、調子に乗らず、これから勝負だと思って、今まで通りの努力を継続すること。逆に、うまく行かず自信が揺らぎはじめている人は、今が日比谷生としての意地の見せ所だと思って、これまた今まで通りの努力を続けることが大切だ。過去にもセンター試験で失敗した先輩はたくさんいる。その中で、「次」に向けて意識をすぐに切り替えられた人が、道を切り拓くことに成功したのである。もう一度、自分のやりたいこと、目指したい大学・学部を確認して、「入れるところ」ではなく、「入りたいところ」を目指す強い気持ちを持ち続けることが、これからの日々を後悔なく過ごすポイントだろう。

*

A 目標ラインをクリアした人

二次の個別学力検査の科目・配点を確認し、現在の自分の課題を明確にした上で、今後の学習計画を立てて過去問を徹底的に演習する。私立大の受験スケジュールも意識して、やるべきことを着実にこなしていこう。

B 目標ラインを少しだけクリアできなかった人

まずはセンター試験と個別学力試験の配点比率を再確認し、今後の方針を決める。センター試験の比率が大きい場合は、志望校を検討する必要が生じるかも知れないが、基本的にはこれからまだまだ学力が伸びる可能性があるわけだから、あまり検討に余計な時間をかけたりせず、①伸ばすべき科目（個別学力検査で配点の大きな科目）と②伸びる科目

（理社・自分の好きな科目）を意識して、過去問演習に集中することが大切だ。

C 目標ラインを大幅に下回ってしまった人

まずはセンター試験と個別学力検査の配点比率を確認する。また、いわゆる「足切りライン」の予想にも注目する。その上で、出願校を再考する場合も出てくるだろう。個別学力検査の配点が高く、しかも不得意科目の配点比率が低い場合は、第一志望を貫くのがよい。一方、センター試験の比率が高かったり、個別学力検査でも苦手科目が気になったりすり場合は、再検討して新しい目標を決めた方がやる気が出る場合もある。自己採点の結果が戻ってくる25日までの間に、他の出願校の可能性があるのかを考えておいて、最終的には戻ってきた結果を材料に判断することになる。例えば、同じD判定でも、C判定にあと一步のD判定なのか、E判定に近いD判定なのかでは判断が変わってくる。ここは大事な判断になるので、ヒストグラムなども参考にしながら、最終的決定することになるだろう。ただし、考える時間はほどほどにして、とりあえず、個別学力検査で重要になる科目（特に、得点が伸びる理社）の学習を継続することが大切だ。繰り返すが、センター試験で失敗してしまったなど感じている人ほど、「次」が大切なのである。

*

今日の自己採点の結果が集積されて、今週末にかけて各予備校がいろいろな数字を出してくるが、あまり数字にふりまわされないこと。分析しても合格しない。「次」を見据えて、少しでも実力を高めることだ。